

5. 評価の実態と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

イ - 本文の要点を適切な英語表現を用いて相手に伝えることができる。
ウ - 書かれた内容について、センスグループやキーワードに着目しながら、必要な情報を正確に読み取ることができる。

(2) 評価の実際

評価の方法

<活動の観察> (ワークシートの記入状況)

- ・Task 3 の Question1 では、吉田兄弟の演奏の特徴や二人の練習や演奏における違いを表している文の主語を探すことにより、必要な情報を読み取る活動をする。ワークシートに記入した後、ペアで確認をする。・それぞれの文のキーワードに着目しながら、キーワードを含む文を探すことができるかどうかを観察する。
- ・Task6 のマッピングは、読解活動後の retelling のためのマッピングである。第1パラグラフから吉田兄弟の演奏の特徴をあらわすキーワードを、第2パラグラフから吉田兄弟の練習や演奏における違いを表すキーワードを書き出してマッピングをする。マッピングも自由なものとし、キーワードを並べるだけでもよいとする。キーワードを書き出すことができるかどうかを観察する。

評価の決定

- ・ワークシートに、主語やキーワードが書けていれば、(B以上)と判断する。ペアで確認する活動の後に書き加えてもよいとする。(ペア活動の重視)

(3) 個に応じた指導の実際

個の学習状況の応じた手だて

- ・必要な情報を読み取ることが苦手な生徒に対して
本文中からキーワードを探し、その情報が含まれている文を探すように助言する。
段落のトピックセンテンス(第1文にあることが多い)を意識させ、どの段落に何についての情報があるのか推測するように助言する。
- ・キーワードが書き出せない生徒やマッピングが描けない生徒に対して
retelling のためのキーワードなので厳密に考えなくてもよいことと、キーワードが選べなければ、各文から一つずつ一番重要な語(句)を抜き出すように助言する。吉田兄弟の演奏の特徴や二人の練習や演奏における違いを表している語はどれか、各文から1語(または、意味のかたまりとしての数語)を選ぶように助言する。
キーワードは書き出せても、マッピングができない生徒には、無理してマッピングしなくてよいことを助言する。読解前の brain-storming や mind mapping ではなく、retelling のための活動であるので、マッピングでもキーワードを順番に並べていく形式でもどちらでもよいとする。

単元を通じた継続的な手だて

キーワードを用いて retelling をする活動をこの単元から継続して導入する。ペアワークでの speaking activity として導入することで、読解の苦手な生徒も取り組めるようにする。Retelling の活動に慣れてきたら、summary を英語で書く活動に発展させていく。

6. 評価から評定への総括

1. 評価

英語では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4項目についてそれぞれ各単元において、2項目ずつ評価するように年間計画を立てた。

(1) 評価方法

- a. 授業における活動の観察
- b. 音読テスト
- c. プロジェクト
- d. 定期テスト
- e. ブックレポート（多読プログラム）

(2) 評価方法と評価の場

- a. 授業における活動の観察
 - ・教師による授業活動観察をおこなう。ワークシートの記入状況や、ペア活動などの参加状況を、毎時間4人ずつ各学期に4回評価する。誰が評価されるかは生徒には知らせないが、評価結果は各学期末に生徒に知らせる。
 - ・授業で使用するワークシートは、すべてファイルに保管しておく。生徒は、単元毎にSelf-Assessment sheetに基づき、授業活動を自己評価する。例)資料2参照
ファイルに保管してあるワークシートの記入状況や、授業活動の自己評価シートの記入状況から、授業における活動の評価を行う。
- b. 音読テスト

各単元終了時には、音読テストを実施する。評価基準については、単元の目標に基づき、生徒と話し合い、生徒と教師で評価基準を作成する。音読テストの前にペアまたはグループで相互評価をし、評価基準を達成することができるように努力させる。
- c. プロジェクト

ポスタープレゼンテーション、インタビューレポート、クイズショー、スピーチ、レシテーション、アフレコ、など。

各単元終了時には、読解後活動としてのプロジェクト活動を課す。評価基準については、単元の目標に基づき、生徒と話し合い、生徒と教師で評価基準を作成する。プロジェクト提出（発表）の前にペアまたはグループで相互評価をし、評価基準を達成できるように努力させる。
- d. 定期テスト

定期テスト（リスニング・内容把握・既習文法事項を用いた条件英作文など）では、「表現」「理解」「言語や文化の知識理解」をバランスよく評価するテストとする。
- e. ブックレポート

4回の多読プログラムを発展させ、家庭学習でも個人で多読プログラムを実施し、参加状況をブックレポートで提出する。

2. 評定

ウエイトバランス表は以下のようである。

観点	評価方法	配分	合計
関心・意欲・態度	授業における評価	5%	10%
	プロジェクト	5%	
表現	授業における評価	5%	35%
	音読テスト	10%	
	プロジェクト	10%	
	定期テスト	15%	
理解	授業における評価	5%	35%
	プロジェクト	5%	
	定期テスト	15%	
	ブックレポート	5%	
言語や文化についての知識・理解	授業における評価	5%	20%
	定期テスト	15%	

定期テストにおける評価を45%とすることにより、授業での活動の重要性を生徒に認識させる。